

8千万件の警察文書解読に挑む

ー20世紀グアテマラの政治暴力と正義ー

狐崎知己（専修大学経済学部教授）

中村雄祐（東京大学大学院准教授）

2005年2月、グアテマラ市の警察施設で8千万点にのぼる警察資料が偶然発見されました。これらの資料は、真実究明委員会の度重なる要請にもかかわらず、国家・軍部が存在を否定し続けてきたもので、1880年代から1996年に至る1世紀もの監視国家の実態を詳細に明るみに出すものです。現在、1975年から85年に至る時期の資料を中心に206人の手で整理・解読作業が進められており、これまで350万件の資料が解読され、強制的失踪者の身元確認などの成果がでています。北欧諸国やスペイン、スイスの国際協力をえて現場で作業を指揮するのはPDH（人権オンブズマン事務所）であり、セルヒオ・モラレス代表をはじめ関係者への脅迫行為が後を絶たない危険な状況にあります。文書の整理・解読・保存については、専門研究者による学際的な協力が要請されており、資金・物資面での国際協力も不足しています。今年8月にこの施設を訪問した狐崎・中村両先生に映像資料を用いて、調査研究の必要性和国際協力の意義を語っていただきます。

日時：2007年12月14日（金）午後6時～7時30分

場所：上智大学中央図書館総合研究棟9階L-921会議室

使用言語：日本語

予約不要・参加費無料